なるほど！！
保幼小接続期カリキュラム

このリーフレットは、保幼小接続期カリキュラムについて説明しています。アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを実践する際に活用してください。

保幼小連携から接続へと発展するため、主体的な学びを接続できるよう、それぞれのカリキュラムのポイントを紹介します。

保幼小接続期カリキュラム

保育所・幼稚園　5歳児の9月頃～3月まで
アプローチカリキュラム

小学校　4月入学～5月末頃まで
スタートカリキュラム

○幼児期における遊びの中の学びが、小学校の学習や生活に生きて働くことができるように工夫された保育所・幼稚園の年長児後半のカリキュラム

アプローチカリキュラム

平成24年度長期研修生　小松　和佳
高知県教育センター　チーフ　屋中　絵里

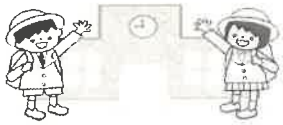
具体的な事例が掲載されダウンロード可能です。
・検索方法
高知県教育センター
↓
平成24年度研究報告書
↓
アプローチカリキュラム

【学びの芽生え】

学ぶというのを意識しているわけではなく、楽しいことや好きなことに集中することを通して様々なことを学んでいく。

○保育所や幼稚園から小学校へ入学した子どもたちが、小学校の生活や教科の学習にスムーズに適応していくことを目指して編成されたカリキュラム

スタートカリキュラム



平成23年度長期研修生　押川　朝子
高知県教育センター　チーフ　屋中　絵里

具体的な指導案が掲載されダウンロード可能です。
・検索方法
高知県教育センター
↓
平成23年度研究報告書
↓
スタートカリキュラム

【自覚的な学び】

学ぶということについて意識があり、集中する時間と休息等の区別がつき、与えられた課題を自分のこととして受け止め計画的に学習を進めることができる。

保幼小連携から保幼小接続期カリキュラムへ

連携から接続へと発展する過程

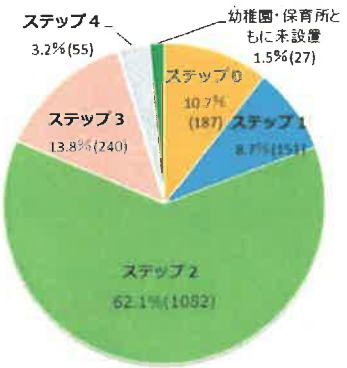
連携

- **ステップ0**
  連携の予定・計画がまだ無い。
- **ステップ1**
  連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
- **ステップ2**
  年回数の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

接続

- **ステップ3**
  授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。
- **ステップ4**
  接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安
[幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について
（平成22年11月11日幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）]



母数：市町村総数（　）内は市町村数

平成24年度幼児教育実態調査
平成25年3月文部科学省初等中等教育局幼児教育課

アプローチカリキュラム

アプローチカリキュラムの特徴

■共同的な学びを充実させる

・友達と関わり合う、助け合う、伝え合うなどの活動を取り入れる。

・クラス全体で共通の目的を持ち、力を合わせて遊びを進めていけるようにする。

■年長児主体の教育課程・保育課程

・年長児が興味や関心を持って、遊びを選択できるようにする。

・年長児の普段の遊びを生かし行事につなげる。

※アプローチカリキュラムの特徴は、平成26年度の研究成果として、明らかになったものを抜粋し、まとめたものです。

〈具体的な事例　リレー遊び〉

・直線を引いてかけっこを楽しんだことがきっかけとなり、その直線を使ってリレーが始まる。

・自分達で走るためのラインを引いたり、チームを分けたりし、年長児達だけで遊び始めることが増える。

・運動会の赤白の組が決まると、友達と競い合うことや勝ち負けを意識する子どもの姿が少しずつ見られる。

・運動会1週間前になると、毎日全員でリレーをするようになる。毎回、同じ組が勝つことが続くなど、困ったことが生じた場合は、年長児全員で話し合い解決策を考える。

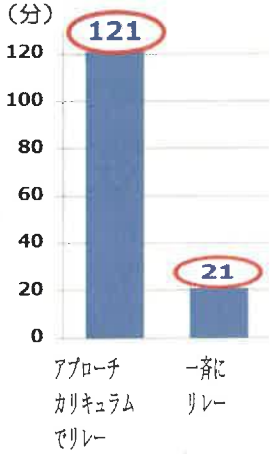
・本番では、それぞれが力を出しきる。

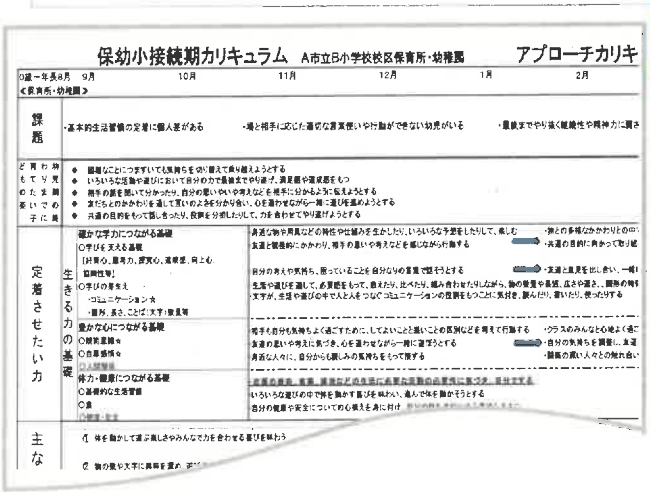
・運動会後も、年中児が加わるなどして、リレーを楽しむ。

事例の結果

アプローチカリキュラムを取り入れ、年長児が選ぶ主体的な活動から遊びが始まることで、リレー遊びに夢中になり、何度も繰り返し走ることを楽しみ、運動量が増えています。

【リレー遊びにおける運動時間の総合結果】




保幼小接続期カリキュラム　A市立B小学校校区保育所・幼稚園　アプローチカリキ

○満一年長8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月

＜保育所・幼稚園＞

課題

・基本的生活習慣の定着に個人差がある

・場と相手に応じた適切な言葉使いや行動ができない幼児がいる

・最後までやり抜く継続性や精神力に課さ

どの幼児もすてきな学び合いの子に育てたい

◆ 難しいことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとする
◆ いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ
◆ 相手の話を聞いて分かったり、自分の思いやいや考えなどを相手に分かるように伝えようとする
◆ 友だちとのかかわりを通して互いのよさを分かり合い、心を通わせながら一緒に遊び充実のようとする
◆ 共通の目的をもって話しあったり、役割を分担したりして、力を合わせてやり遂げようとする

定着させたい力

生きる力の基礎

確かな学力につながる基礎
○学びを支える基礎
[計算心、思考力、探究心、洞察眼、向上心、
協調性等]
○学びの芽ばえ
・コミュニケーション力
・聞き、話す、ことば・文字・数量等

豊かな心につながる基礎
○自尊感情
○自己表現力
○人間関係

体力・健康につながる基礎
○基礎的な生活習慣
○食
○健康・安全

・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりして、楽しむ
友達と協働的にかかわり、相手の思いや考えなどを感じながら行動する
・友達と意見を出し合い、一緒
・自分の目的に向かって取り組
自分の考えや気持ち、思っていることを自分なりの言葉で話そうとする
・友達と意見を出し合い、一緒
生活や遊びを通して、必要感をもって、数えたり、比べたり、組み合わせたり工夫したりしながら、物の重量や長さ、広さや深さ、個数の特
・文字が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気付き、聞いたり、書いたり、使ったりする

相手も自分も気持ちよく過ごすために、してはいけないことと楽しいことの区別などを考えて行動する
友達の思いや考えに気づき、心を通わせながら一緒に遊ぼうとする
身近な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する
・クラスのみんなとの絆よく過ご
・自分の気持ちを調整し、友達
・園児の思いと大人との触れ合い

・友達の表現、表情、表現などの生活に必要な言葉の必要性に気づき、自分でする
いろいろな遊びの中で体を動かす喜びを味わい、進んで体を動かそうとする
自分の健康や安全についての心構えを身に付け、

主な

① 体を動かして遊ぶ楽しさやみんなで力を合わせる喜びを味わう

② 物の重ね方に興味を置き、遊び

アプローチカリキュラムを作成する手順

年長児が遊びを選んだり、進めたりすることを保育者が大切にすると、子どもは遊ぶ中で、思考やコミュニケーションを繰り返しながら様々なことを学んでいきます。

手順3

年長児の思いや願いを理解し、年長児が主体的に活動を展開できるように援助していく。

手順2

主な経験内容を確認し、取り入れる活動を考える。また、環境構成についても考慮しておく。

手順1

アプローチカリキュラムを前期と後期に分け、定着させたい力について、学び・豊かな心・健康の3つの観点から考える。

事前

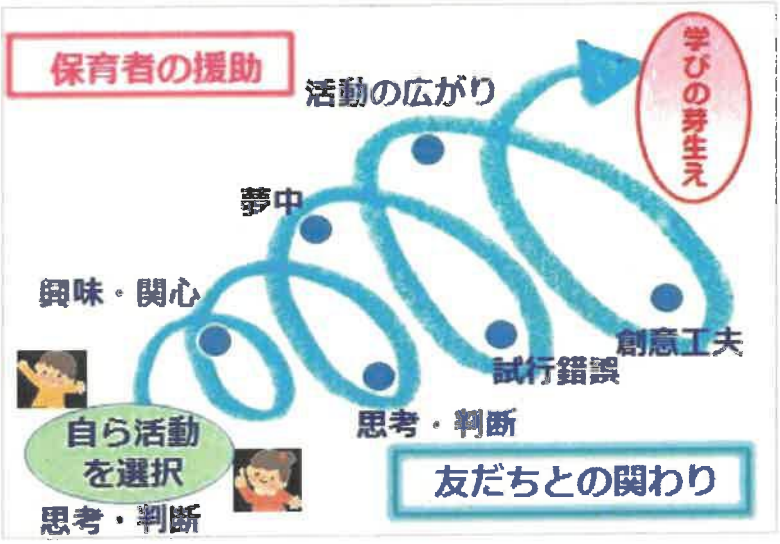
前年度の1～2月頃までに、それまでの子どもの姿から、強み・弱みが何であるかを考える。担任だけでなく、複数の保育者で話し合う。そこから、年長児の課題、幼児期の終わりまでに育てたい子どもの姿を考える。

・検索方法
高知県教育センター
↓
平成24年度研究報告書
↓
「保育所・幼稚園と小学校の接続に関する研究」　資料1
上記を参考にして、
作成手順を紹介しています

アプローチカリキュラム

年長児が遊びに夢中になっている時には、保育者は、何を楽しんでいるのかを見ることが大切です。
遊びが停滞した時には、年長児が「自分で考え、自分で決めた」と思える援助をすることが必要です。

年長児の姿	保育者援助の具体
年長児がアイディアを出し合い、試行錯誤しながら遊びを発展させている。	年長児の思いをじっくりと探り、必要に応じて援助をする。環境構成では、素材や遊び道具を季節によって変化させるなどの工夫をし、年長児が自分で選べるようにしておく。 【自ら活動を展開できるような環境を設定】
年長児が保育者や友達に遊びを紹介する。	年長児の工夫や努力に対し「すごいね」「楽しそうだね」と共感的な気持ちを伝え、「それから、どうするの？」等遊びが発展するよう問いかける。
友達のしている遊びに入りたいけれど、なかなか入れずに困っている。	必要に応じて保育者自身が、一緒に楽しんで遊ぶなどし、年長児達をつなぐようにする。
劇遊びでセリフを言うことや、リレー遊びで走ることに、苦手意識を持っている。	「去年の年長さんがしてたの、覚えてる？」「〇〇君がこんなことしてるんだけど、みんなでしてみない？」など、苦手だけれどやってみたいと気持ちが動くような働きかけをし、年長児がやってよかったという気持ちにさせる。
年長児が遊びに夢中になれず、意欲を持てない。	なぜ、遊びが停滞しているのかを分析する。子どもの思いに寄り添いながら一緒に環境を用意するとともに、年長児が選択し、「自分で考えた」と感じられるようにする。



年長児が自発的、意欲的に関われるような環境を構成し、年長児の主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすることで、小学校以降の学びの芽生えとなります。

自分がやりたいことを選んで遊ぶことは、年長児の興味・関心から活動が始まるため、自然と意欲的になり、夢中になったり、試行錯誤したり、活動が発展して広がったりすることで、創意工夫が見られ、学びの芽生えとなります。

友達と関わりながら活動することで、アイディアを出し合ったり、助け合ったりしながら「友達と一緒に活動するのは楽しい。また何かをしたい」という主体性のもととなる気持ちが生まれます。

また、保育者は、年長児の思いや願いなどを踏まえて遊びの展開を見通し、活動のねらいを持ち、必要な援助をしていくことが大切です。

スタートカリキュラム

スタートカリキュラムの特徴

・一人一人の活動時間を確保し、活動的な学習内容を多く取り入れている。

・コミュニケーション力が高まり、友達との関わりが深まる。

・目標を「楽しむ」「慣れる」「親しむ」などにして、個の内面の育ちを大切にする。

スタートカリキュラムの工夫

①幼児期に経験してきた、「遊びを通して総合的に学ぶ」指導方法や指導形態を小学校の教科の学習や生活に取り入れる。

②教師の関わり方の工夫をする。

③児童が主体的に活動でき、安心して活動が行えるような環境を設定する。

④複数の教科の目標や内容を組み合わせた合科的な学習の時間を設定する。

スタートカリキュラムの具体

保幼小接続のための実践プランが掲載されダウンロード可能です。

・検索方法

高知県教育センター

↓

平成25年度研究報告書

↓

保幼小接続のための実践プラン

環境	・遊びの交流スペースの設定、水筒の置き方の確認など園生活の環境を生かす。 ・フリースペース（体育館・校庭・図書室・多目的教室等）を積極的に活用する。
学習	・児童が思いや願いを自由に表現できるように場や材料において選択・自己決定できる準備をする。 ・児童同士の関わり（ペア・グループ等）に重点をおいた学習を展開する。
幼児期の学びを生かした指導	・歌、リズム遊び、遊具遊び、草花遊び、粘土工作等、幼児期に経験した学びを積極的に取り入れる。 ・施設の使い方、読み聞かせ、給食、掃除、並び方など保育所や幼稚園で経験してきたことを児童の発言の中から引きだす。その後、新しい体験は行事の意図や小学校でのやり方を教師が絵や写真等を用いながら、模範を示すなど具体的な指導を行うことで自信をもたせる。 ・学習後にふりかえりを行い、できるようになったことや感想等を表現する。
教師の関わり	・教師の指導時間と児童の活動時間の割合を２：８～４：６を目安にする。 ・絵や写真等を使いながら分かりやすく簡潔に説明・指示することで、児童の活動時間を十分に保障する。 ・支援が必要な児童に個別に関わる時間をつくる。

スタートカリキュラムを作成する手順

担任は、スタートカリキュラム後も児童主体の学習活動を意識し、継続して実践することが大切です。

主体的な学びを軸に、アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへと接続できます。

主体的に学ぶことで、児童は楽しく笑顔になり、自信を持ちコミュニケーションが豊かになります。

手順２

１年生の思いや願いを理解し、主体的に学ぶことができるようにしていく。

手順１

スタートカリキュラムの内容を参考にしながら、聞き取りをした年長児の実態を考慮し、１年生に合うスタートカリキュラムになるよう編成を考える。

事前

年長児の経験内容や活動を保育者から聞き取る。入学前に保育を参観できる機会をもうけ、活動内容や保育者の援助、環境構成について解説をしてもらいながら、活動を見る。

平成２６年度高知県教育公務員長期研修生（研究生・留学生）　香美市立香長小学校　教諭　島内　美子